

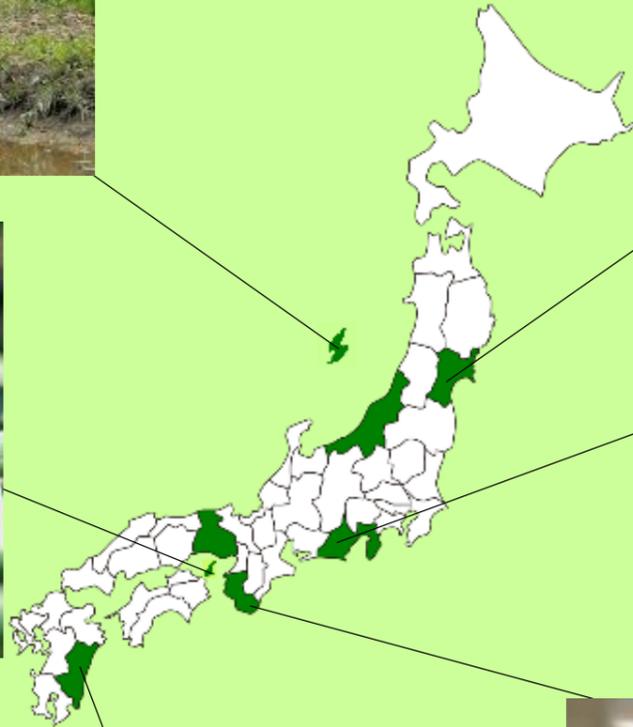
のうぎょういさん

く

# 農業遺産で暮らす

知ってますか？

# いきものパンフレット



ラッキービレッジ 吉村  
(農水省Youtuber)

わあ、色ないきものがいて可愛いね！

これは、農業遺産で暮らすいきものたちだよ。  
いさんちゃん、せかいくん、名前をいえるかな？

鳥がいっぱいいるね！

答えは次のページだよ →  
照らし合わせてみよう！

いさんちゃん

せかいくん



# せかいのうぎょういさん にいがたけんさどし 世界農業遺産・新潟県佐渡市 の トキ



美しい羽根をもち、古くから日本で愛されてきたトキ。しかし、羽根をとるために捕まえられてしまったことや、エサ場が減ったことで、野生のトキは日本からいなくなりました。

佐渡の人々は、再びトキが暮らせるよう、生きものを育む農法でトキのエサ(小さいきもの)を増やしたり、米作りに使う農薬や化学肥料を減らしたりといった努力をおこない、環境を整えました。

トキ:ペリカン目トキ科

学名はニッポニア・ニッポンで日本を象徴する鳥。

羽根を広げると「トキ色」という美しい赤色をしています。



提供：環境省

そして、トキの野生復帰(放鳥:トキを自然に放すこと)がはじまり、再びトキが佐渡に住み始めたのです。この「トキと共存する佐渡の里山」の取組が認められ、日本で初めての世界農業遺産になりました。

トキのくちばしは触覚が発達していて、田んぼや湿地にくちばしをいれてエサを探します。

# にほんのうぎょういさん ひょうごけんみなみ 日本農業遺産・兵庫県南あわじ地域 の ヒバリ



ヒバリは、「日晴れ」が語源とも言われ、晴れた日に高い声で鳴く鳥です。たまねぎ栽培が盛んな兵庫県の南あわじ地域では、ヒバリがとても大切にされています。

ここでは、たまねぎ栽培が行われており、たまねぎ畑には雑草が生えてしまいます。ヒバリは、たまねぎ畑に生えるタデ(雑草)の種を食べてくれるので、農家に良い影響を与える鳥(益鳥)といわれています。

ヒバリ:スズメ目ヒバリ科

最近では原っぱや丘が減ってしまったので都市部では見かけることが少なくなっています。

そのため、農家さんはたまねぎ畑で産卵や子育てをするヒバリの巣を見つけると、巣の周辺にたまねぎを寄せ、外敵から身を守れるように温かく見守っています。

このように、いきものと農業、お互いが良い関係でいることも農業をするうえで大事なことです。



上の写真のように、農家さんたちがたまねぎを寄せて巣を保護します。

自然の中で暮らすいきものたちと農業は、お互いに良い影響をもたらしていることがあります。人々の営む農業がいきものに優しい姿であり続けることが大事ですね。

# 世界・日本農業遺産・宮城県大崎地域の マガン



おおさき でんとうてき こうずい  
大崎地域は伝統的なお米の生産地です。この地域は水不足や洪水、夏の冷たい季節風「やませ」など、お米を作るには厳しい自然条件ですが、江戸時代からの農家の知恵と工夫により、豊かな田んぼが広がる農業地帯として発展してきました。

こうした豊かな水のある環境には、お米の害虫を食べしてくれるクモやカエル、土を耕してくれるイトミズなどたくさんのいきものが暮らしています。

マガン:カモ目カモ科 国内に飛んでくる半分がこの地域で冬を越します。

見た目の最大の特徴は白いおでこ。大きさはカモと白鳥の真ん中ほどの大きさです。

## 【マガンの1日の生活サイクル】

お昼はエサのある田んぼで過ごし、夜になると周辺にある沼に戻ります。



また秋には、遠いシベリアの地から、10万羽を超える国の天然記念物のマガンが飛んできて冬を越します。マガンたちは田んぼにある落穂や草の種や葉などをエサとします。こうして田んぼとたくさんのいきものたちの暮らしが密接に関わって、農業が営まれているのですね。

マガンが寝床に帰る姿は“マガンのねぐら入り”と呼ばれ息をのむ光景です。

# 世界農業遺産・静岡県掛川周辺地域の

## カケガワフキバツタ



お茶を作っている静岡県掛川周辺地域には、一風変わったバツタがいます。それはカケガワフキバツタという飛べないバツタです。飛べないバツタは、お茶畑近くの草地に棲んでいます。お茶を作るために農家さんが草地に生えているススキなどの草を刈り取ります。この草を刈るための草地が飛べないバツタの住処です。

カケガワフキバツタ:バツタ目バツタ科  
フキの葉っぱを好んで食べることから  
フキバツタという名前が付いたようです。

農家さんは、刈った草を干して、茶畑に敷きます。敷いた草には、茶畑を乾燥しにくしたり、肥料を茶畑にとどめる効果があるので、お茶の葉の栄養を高めることができます。このような農業の方法を「茶草場の農法」といい、古くから続いている伝統的な農法となります。

農家さんが毎年毎年、草を刈ってくれてから新しい草が元気に生えてきて、飛べないバツタの棲息環境も守られているのですね。

このカケガワフキバツタは羽が退化して(なくなる)遠くまで飛べないため、ごく一部の地域にだけいる固有種となります。

農業といきものは深い関わりがあって、田んぼや畑には多くのいきものが暮らしています。

農業遺産認定地域では、農業と深く関わっているいきものの生活も守りながら、農業を営んでいるんですね。

## 世界農業遺産

わかやまけん たなべちいき  
和歌山県みなべ・田辺地域の

## ミツバチ

みなべ・田辺地域では梅の栽培が盛んです。ここでは養分の乏しい礫質(大きめの石を含んだ土の性質)の土地が多く、里山の斜面に薪炭林(※)を残しつつ梅の木を植えることで土地を保ち高品質な梅を栽培しています。

そこでは、薪炭林に棲むニホンミツバチなどが、梅が果実を実らせるために、花粉を運ぶ役割を果たしてくれています。ミツバチにとっても、梅は花の少ない早春に蜜や花粉を提供してくれる貴重な存在なので、良い共存関係が築かれているのですね。

※薪炭林:たきぎや炭の原料となる木材をとるための森林。

ミツバチの活動は梅のできぐあいに大きな影響をあたえます。この地域では、梅の開花期間は農薬を使わないなど、重要なパートナーとしてミツバチを保護しています。



## 日本農業遺産

みやぎけん たのきよ たけちいき  
宮城県田野・清武地域の

## ツバメ

田野・清武地域では、先人の知恵と工夫により豊かなゆとりのある露地畑作(※)を実現し、江戸時代から続く「干し野菜」の伝統を受け継ぎ干し野菜生産にも力を入れています。

そんなこの地域では、ダイコンやお茶などを作るために必要な機械をしまう倉庫に、巣をつくるツバメがたくさんいます。お茶につく虫を食べてくれるので、この地域では「福を呼ぶ鳥」としてツバメは歓迎されています。

※露地畑作:ビニールハウスなどの特別な設備を使わず自然に近い

環境で育てる農業の方法。

ツバメは身近な鳥ですが、全国的に数が減っているとされています。この地域では一年を通して数多く見られているため、より身近なものとして大切にしています。



# 農業遺産で暮らすサンショウウオたち

サンショウウオって知ってますか？ サンショウウオは両生類と呼ばれるカエルやイモリの仲間です。きれいな水で農業をしている農業遺産地域のあちこちで、サンショウウオたちがひっそりと暮らしているのです。



ホクリクサンショウウオ



ハコネサンショウウオ



オオイタサンショウウオ



たくさんのいきものが農業遺産で暮らしていることが分かったわ！  
他にはどんな地域があるのかな？

もっと知りたい！  
農業遺産

くわしくは、農林水産省Webサイト・BUZZMAFF  
「農業遺産で太鼓たたき隊」をご覧ください。

■お問い合わせ

農林水産省 農村振興局 農村政策部 鳥獣対策・農村環境課  
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1丁目2番1号

TEL: 03-3502-8111

農業遺産

